

# 鶴岡閉館に伴い眠る2万点

## アマゾン資料「日の目を」

2014年3月に閉館した鶴岡市のアマゾン民族館とアマゾン自然館に眠る約2万点の資料の展示再開を目指し、「アマゾンコレクション保護・基金」が設立された。資料を収集した文化人類学研究者・山口吉彦さん(76)、考子さん(72)夫婦の友人が発起人となり、山口さん夫婦の思いを若い世代にならと広く寄付を募っている。

基金設立を考えたのは米 ともに記者会見を開いた。沢市の松田亮子さん(55)。山口さんが収集したアマゾン民族館が入っていた「出羽 庄内国際村」(鶴岡市伊勢原 大規模。松田さんは考子さん)で27日、山口さん夫婦と



自ら収集したアマゾン資料への思い入れを語る山口吉彦さん(中央)さんと、保存に向けて協力する松田亮子さん(右)＝いずれも鶴岡市

## 展示再開を目指し、基金創設

村に残されていた資料が、市の方針で今年3月までで保管期限を迎え、行き場を失うことを聞いたという。

「アマゾンの人たちの自然を敬う思いが込められた貴重な資料。ぜひ日本の子どもたちに見て欲しい」と話す松田さん。「山口さんの情熱がうらやましいとも思った」と打ち明ける。自身が専務理事を務めるイベント企画会社を設立者とし、公益財団法人「公益推進協会」(東京)の制度を利用して基金を創設。昨秋から協会のホームページ(<http://kosuikyo.co>)などで寄付を募っている。

基金の目的は、資料を展示し所蔵もできる建物の建設だが、集まった寄付金の額などによって展示方法や展示場所を決める予定だ。会見に臨んだ山口さんは自ら収集した魚や鳥の標本を手に取りながら、「ひとつひとつの資料に思い出がある。資料の命運が尽きるのかと思っていたが、基金という形で一歩前へ進めた」と喜んだ。

山口さんによると、国際村の展示スペースと収蔵庫にある資料の保管期限は、収蔵庫のみ来年3月まで延期されたという。松田さんは「時間はあまりないが、文化財の保護に積極的な企業もある。日本が駄目なら海外にも(寄付を募りに)行きます」と話している。

(井上潜)



閉館したアマゾン民族館に残る資料を見つめる山口吉彦さん